

器などの試験・計測器を幅広く販売し、2020年に創業70周年を迎えた。

◆3つの強みで圧倒的なプレゼンス

「国内49拠点、国外47拠点の圧倒的な販売ネットワークが、当社の第一の強み。迅速な顧客対応が可能だ」と語るのは、1992年日本電計に入社した柳丹峰社長。戦後間もない創業期は、秋葉原で大学の研究室に電子計測機器等を販売し、高度成長期になるとオシロスコープなどの電子計測器で大手電機メーカーとの取引を拡大、1991年の株式会社頭登録を経て2004年にジャスダック上場を果たした。「永年培った信用力が2番目の強みだが、3番目はいち早く海外展開に乗り出したため、グローバルに力を発揮できること」（柳社長）。大手電機メーカーの海外進出に伴い、1990年に初の海外支店を開設、以降も中国・アジアを中心に拠点整備を続けてきた。自動車をはじめとする電子計測の需要は世界的にも高まることから、柳社長は「今後は欧米や南米、ロシアなどの拠点整備を進めて、2030年には国内と海外の売上比率を半々に持っていききたい」という。



JARIにて（歩行者安全規格試験）セミナー開催

電子計測器で国内最大のシェアを誇る独立系専門商社

日本電計株式会社

代表取締役社長
柳 丹峰 氏

企業理念

1. 顧客企業の喜びを通して、その一層の発展に貢献する、信頼されるエクセレントパートナーになる
2. 公正にして明朗な社会の実現に向けて、尊敬されるベスト・コンプライアンス（法令遵守）カンパニーになる
3. 地球環境の回復と維持保全を図る、生きている地球のグリーンパートナーになる
4. 最先端技術の発展と新製品の開発・生産に寄与できる、ボランティア（自発的貢献）・グローバルカンパニーになる
5. 活力と企業価値を高め、社員にとって働き甲斐のある、健全経営のヘルシーカンパニーになる

●長寿の秘訣

かつて電子計測器の最大の売り先は、家電を軸にした国内の電機業界。バブル崩壊以降、日本メーカーが地盤沈下を続けるなか、日本電計は巧みに商材を広げ、顧客を広げ、海外に販路を開拓してきた。ニッチ市場の独立系であるがゆえ、挑戦の繰り返しがあったことは想像に難くない。圧倒的なネットワークで得た情報と知識を生かし、試験受託などのサービス事業をも手掛ける同社は、テクニカル商社と呼ぶにふさわしい変貌を遂げた。



本社 (NDビル) 外観

●会社概要

設立：1950（昭和25）年9月4日

所在地：東京都台東区上野 5-14-12 NDビル

事業内容：電子計測器・各種システム機器・電子部品などの販売製造およびリース業務・レンタル業務

資本金：11億5,917万円（東証JASDAQ上場）

社員数：531名（2020年3月末現在）グループ総員 1,069名

URL：<https://www.n-denkei.co.jp/>



規格認定唯一のソフトカー代理店

◆「ソフト」を提供するビジネスを強化

もう一つ、同社を特徴づけているのが、単にモノを売る商社機能に留まらず、サービスを売るビジネス形態を強化してきたことだろう。例えば、先進運転支援システム（ADAS）市場に向けた自動車安全試験設備への取り組み。ADASのシステム開発に必要な車両プラットフォームなどの試験装置の販売や技術サポートを実施しているほか、日本自動車研究所（JARI）の城里テニスコートを使い、ADASの開発要求に対応できる試験サポートを開始する。「5Gや新エネ自動車、ADASなど、国内外で電子計測の需要は一段と拡大するのは確実で、当社の活躍の場も広がるはず。そのとき『モノ』だけでなく、『コト』を提供していくテクニカル＆ソリューションの姿勢が大事になる」（柳社長）と強調する。

費負担で大学院まで通わせるケースもあるほか、グローバル人材の育成に向けて10年前から1年間の海外研修制度を導入、最近では平均年齢が下がっている一方で、ハイテク産業の電子計測を舞台にバイタリティー溢れる同社の活躍が見られそうだ。